

菊池寛実記念 智美術館 10周年記念

# 三輪壽雪・休雪 -破格の創造- 展



1 三輪壽雪  
鬼萩窯変割高台茶碗 2006

2013年1月19日(土)

→ 3月31日(日)



2 三輪休雪  
龍人伝説 六鈎杵 2004-2010

菊池寛実記念 智美術館

〒105-0001 東京都港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1F

TEL03-5733-5131 FAX03-5733-5132

<http://www.musee-tomo.or.jp>

プレスレビューのご案内は7頁をご覧ください。

拝啓 時下ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素より、私ども菊池寛実記念 智美術館の活動にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。当館の次回展覧会、「三輪壽雪・休雪-破格の創造-」展についてのご案内をさせていただきます。本展では、「萩焼」の重要無形文化財保持者、三輪壽雪（じゅせつ、十一代休雪、本名・節夫 1910年～）の代表作と、壽雪の長男、当代休雪（きゅうせつ、本名・龍作 1940年～）の代表作を、山口県立萩美術館・浦上記念館のコレクションを中心にご紹介いたします。

三輪家は長州藩の御用窯として江戸時代前期から続く萩焼の名門陶家です。代々休雪の名を継承し、萩焼の伝統技法を現代に伝えてきました。壽雪は茶陶を制作の中心に据え、自己の個性を投じた造形を徹底して追求してきました。ことに割高台を持つ鬼萩手の茶碗群は、独創性と圧倒的な存在感によって壽雪の作陶を象徴します。また休雪は、作陶家として活動を始めた頃から一貫して萩焼の手法による彫刻的な作品を制作し、「花子の優雅な生活」と名付けたハイヒール・シリーズから近年の「龍人伝説」にいたるまで、自身の内的世界を表現してきました。萩焼における造形の追求者としての父子二代にわたる破格の創造をご覧ください。

敬具

## ■■■展覧会概要■■■

- 展覧会名 三輪壽雪・休雪—破格の創造—展
- 会期 2013年1月19日(土)～3月31日(日)
- 観覧料 一般1,000円／大学生800円／小中高生500円
- 主催 公益財団法人菊池美術財団、山口県立萩美術館・浦上記念館
- 会場 菊池寛実記念 智美術館（〒105-0001 東京都港区虎ノ門4-1-35 西久保ビル）  
<http://www.musee-tomo.or.jp>
- 開館時間 午前11時から午後6時まで（入館は午後5時30分まで）
- 休館日 毎週月曜日（2013年2月11日は開館）、2月12日（火）
- 展示内容 陶芸家・三輪壽雪氏の作品7点  
三輪休雪氏の作品39点 計46点により構成
- 関連行事 会期中、講演会、対談、学芸員による展示解説、及びナイトミュージアム西洋館見学会を開催（詳細はリリース5頁参照）。

展覧会に関するお問い合わせ 担当：花里（☎03-5733-5131 / FAX03-5733-5132）

## ■■■ 展覧会内容のご案内 ■■■

### 親子 2 代にわたる萩焼の「破格」の造形の競演

#### 三輪壽雪氏の茶陶

- ◆国内最高齢(102歳)の陶芸家
- ◆圧倒的な存在感を見せる「鬼萩」と「割高台」

三輪壽雪氏の造形については 2006 年に開催された回顧展「三輪壽雪の世界」で初期から新作までの 191 点が紹介され、「鬼萩」(注 1)、「割高台」(注 2)の造形が圧倒的な存在感を示しました。

このたびの休雪氏との親子二代展では、敢えて 7 作品に絞り込み、「休雪白」による初期の作品から「鬼萩」「割高台」を特徴とする近作までの「破格」の造形を象徴的に展示いたします。

(注1)鬼萩(おにはぎ) 1983 年、73 歳で重要無形文化財保持者に認定された後に創生した壽雪氏独自の様式。萩焼の素地土に通常の量を遥かに超える砂礫を入れ、三輪家伝統の休雪白と称される「白萩」に豪快さを加えた。「割高台」との相乗効果で茶碗の寸法は大きくなり、意欲に満ち溢れた造形は壽雪氏の作陶を象徴する。

(注2)割高台(わりこうだい) 高麗茶碗に見られる「割高台」の形状に共感した壽雪氏が、自らの個性を投じ、独自に展開させた高台表現。威風堂々とした割高台は、本歌とは別の境地からつくり出されたものであり、現代的な感性を感じさせる。



3 壽雪 白萩手桶花入 1965



4 壽雪 鬼萩花冠高台茶碗 銘 命の開花 2003

#### 三輪休雪氏の陶芸

- ◆「愛(エロス)」と「死(タナトス)」をテーマにした彫刻的な表現
- ◆センセーショナルなデビュー作「ハイヒール」から最新の「龍人伝説」までの代表作 39 点を展示

十二代休雪は、自身の内的世界を陶芸で表現することに一貫して取り組んできた極めてユニークな作家です。東京藝術大学卒業直後から個展活動をはじめ、現在にいたるまで旺盛な作家活動を続けています。器をはじめとする一般的な陶芸の造形と一線を画す作品は、つねに話題を呼んでいます。



5 休雪 LOVE 1969



6 休雪 ハイヒール 1979  
(\*展示作品と異なる場合があります)

「愛 (エロス)」と「死 (タナトス)」という人間の本質的なテーマを、ときに自らのライフストーリーと重ね合わせて造形化した表現は、具象的で具体性に富んでいます。見る者に分かり易く、強烈な印象を与えると同時にただようユーモアが明るさと爽快感をもたらします。

一方、こうした造形表現は萩焼を基本としたやきものの技術に裏打ちされたものでもあり、休雪氏のやきものへの深い愛を感じさせます。



7 休雪 日蝕 1977



8 休雪 続・卑弥呼の書 No.2 1992

## ■作家略歴■

### 三輪壽雪 (本名 節夫)

- 1910 山口県阿武郡椿郷に、旧萩藩御用窯三輪家の三男として生まれる。
- 1927 十代休雪を継いだ次兄を助け家業に従事する。
- 1941 川喜田半泥子の窯で修業する。
- 1967 十一代休雪を襲名する。
- 1976 紫綬褒章受章。
- 1983 重要無形文化財「萩焼」の保持者に認定される。この頃より「鬼萩」にとりかかる。
- 1990 勲四等旭日小授章受章。
- 2003 家督を長男龍作 (十二代休雪) に譲り、自ら壽雪と号す。
- 2006 「三輪壽雪の世界」展開催。

### 十二代三輪休雪 (本名 龍作)

- 1940 三輪壽雪の長男として萩市椿東に生まれる。
- 1959 画家を志し、絵画制作を始める。
- 1967 東京芸術大学大学院陶芸専攻修了、処女作「花子の優雅な生活『ハイヒール』」を発表。
- 1978 個展「人間シリーズ展」(青木画廊)。
- 1988 個展「卑弥呼展」(高島屋日本橋店ほか)。
- 1991 個展「三輪龍作 卑弥呼の書展」(有楽町アートフォーラム)。
- 1994 「陶芸・三輪龍作の世界—愛と死の造形」(下関市立美術館)。
- 2003 十二代休雪を襲名する。
- 2009 個展「陶 愛と死の融合 十二代三輪休雪展」(パリ三越エトワールほか)。
- 2010 個展「『龍人伝説』への道 三輪休雪展」(山口県立萩美術館・浦上記念館)。

## ■■■ 展覧会関連行事 ■■■

展覧会会期中、下記の関連行事を開催いたします。関連行事によっては、会場の都合により、満席となる場合がございます。予めご了承くださいませようお願い申し上げます。

### ■ 講演会・対談

I. 講演会 テーマ＝萩焼の歴史について

林屋晴三（当館館長） 1月26日（土）

II. 講演会 テーマ＝三輪休雪氏の陶芸について

石崎泰之氏（山口県立萩美術館・浦上記念館学芸課長） 2月23日（土）

III. 講演会（対談形式） テーマ＝休雪氏の陶芸のテーマである「愛」、「男と女」について

三輪休雪氏 聞き手＝花里麻理（当館学芸員） 3月16日（土）

当館 B1 階展示室にて いずれも午後 3 時より（観覧料のみ、聴講無料）

### ■ ナイト・ミュージアム 音と作品による魅惑のアンサンブル

・能管一管によるライブ演奏 2月23日（土）

演奏＝藤田六郎兵衛氏（能楽笛方藤田流 11 代宗家）

当館 B1 階展示室にて いずれも午後 6 時半より（開場＝午後 6 時）

参加費 お一人様 3,000 円（観覧料を含みます） ＊招待券ご持参の方は 2,000 円となります。

定員＝およそ 50 名様 お申し込みは当館まで（電話 0 3 - 5 7 3 3 - 5 1 3 1）

### ● 学芸員による ギャラリートーク

2月9日（土）、16日（土）、3月2日（土）、9日（土）、23日（土） 各日午後2時より

### ■ 西洋館見学会（予約制・定員 20 名様）

2月9日（土）／3月2日（土） 各日 11 時より

当館敷地内の西洋館（登録有形文化財）は、大正時代に建てられた後、修復を重ねながらも建具等の室内装飾が丁寧に保全され、今日まで使用されている希有な建物です。通常非公開の内部を、展覧会の期間中に特別公開いたします。

※西洋館のご案内（建築家 篠田義男氏による）、美術館観覧料（学芸員の解説付き）、レストラン ヴォワ・ラクテでのランチを含め、お一人様 8,000 円です。

■本展覧会について広報媒体へ掲載、取材をいただく場合、本リリースで紹介されている作品画像をデータでお貸し出しいたします。申込書のご希望の図版に☑を記し、用紙を返信のうえ、お問い合わせください。ご紹介いただく記事、番組内容については、情報確認のため校正の段階で事務局までお知らせください。お貸し出す画像データは本展覧会終了をもって使用期限とさせていただきます。作品の画像を1点以上ご掲載の上、本展をご紹介くださる媒体に対し、本展ご招待券を読者プレゼント用に提供いたします。申込書、所定の欄に招待券希望の旨を明記してください。

**掲載に関するお問い合わせ先** 菊池寛実記念 智美術館 (担当：花里、島崎)

TEL.03 (5733) 5131 FAX.03 (5733) 5132 <http://www.musee-tomo.or.jp/>

## 掲載・画像貸出申込書

返信先 FAX : 03-5733-5132

### ●貴社基本情報

会社名:	
担当部署:	担当者名:
住所:	
電話	ファックス:
E-MAIL:	

### ●媒体情報

新聞 雑誌	媒体名:
	発行日:
TV ラジオ	媒体名:
	放送日:
ネット	URL:

### ●画像貸出リスト ※キャプションには作者/作品名/制作年、撮影者、所蔵を必ず入れてください。サイズの単位はcm。

希望作品に☑	作品キャプション
<input type="checkbox"/>	1 三輪壽雪「鬼萩窯変割高台茶碗」 2006、高 11.2 径 16.7~16.1 (撮影:竹本春二) 山口県立萩美術館・浦上記念館
<input type="checkbox"/>	2 三輪休雪「龍人伝説 六銚杵」 2004-10、高 66.0 78.0×51.0(撮影:田中学而)山口県立萩美術館・浦上記念館
<input type="checkbox"/>	3 三輪壽雪「白萩手桶花入」 1965、高 33.2 19.0×21.0 (撮影:竹本春二) 山口県立萩美術館・浦上記念館
<input type="checkbox"/>	4 三輪壽雪「鬼萩花冠高台茶碗 銘 命の開花」 2003、高 11.0 径 16.0~15.3 (撮影:竹本春二) 山口県立萩美術館・浦上記念館
<input type="checkbox"/>	5 三輪休雪「LOVE」 1969、高 37.0 24.5×36.0(撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	6 三輪休雪「ハイヒール」 1979、高 22.0 32.5×20.0(撮影:田中学而)
<input type="checkbox"/>	7 三輪休雪「日蝕」 1977、高 41.3 50.0×30.0(撮影:田中学而) 国際交流基金
<input type="checkbox"/>	8 三輪休雪「続・卑弥呼の書 No.2」 1992、高 62.0 235.0×169.0(撮影:田中学而)山口県立萩美術館・浦上記念館

●読者プレゼント用チケット希望: 5組10名様 10組20名様

## プレスレビューのご案内

前回ご好評をいただきましたプレスレビューをこのたびも開催いたします。  
年始めのご多用のなか、大変恐縮ではございますが、ぜひお運びいただきますようお願い申し上げます。当日は展覧会の内容を当館館長林屋晴三がご案内申し上げます。十二代三輪休雪氏も同席される予定です。

ご多用のなか恐縮に存じますが、どうぞご出席くださいますようお願い申し上げます。

菊池寛実記念 智美術館

### プレスレビュー 2013年1月18日(金) 14:00～

- 14:00～14:45 当館館長が展覧会の見どころをご説明申し上げ、作品解説などギャラリートークを行います。十二代三輪休雪氏も同席される予定ですのでインタビューなどをお受けいたします。また、展覧会場内ご撮影いただけます。
- 14:45～15:00 皆様からのご質問にお答えいたします。

会場： 菊池寛実記念 智美術館 〒105-0001 港区虎ノ門 4-1-35 西久保ビル B1

- ・日比谷線・神谷町駅出口 4b より徒歩 6 分
- ・南北線・六本木一丁目駅改札口より徒歩 8 分
- ・南北線／銀座線・溜池山王駅出口 13 より徒歩 8 分
- ・銀座線・虎ノ門駅： 出口 3 より徒歩 10 分

ご出席いただける場合は、下記フォームにご記入の上、FAX にて

ご返信下さい。 **返信先 FAX 03-5733-5132**

会社名：	
担当部署、氏名	
住所：	
電話：	FAX：
email	